



三島市内の3中学校で防災教育を実施



三島所は、今後も担当地域の学校の要請に応えて防災教育を行い、いざという時に役立つ学びを学生に伝え、地域の防災に貢献していく。

「自助・共助の大切さを知った」「地域の防災訓練へ積極的に参加したい」といった感想が寄せられた。

「災害時に重要となる「自助・共助」について伝えるとともに、もし事態の当事者になってしまった場合に役立つ知識として、2人で手を繋いで人を運ぶ徒手搬送、毛布を使った応急担架の作り方、はさみを使わないナイロン紐の切り方などの体験を行った。生徒たちは真剣な表情で自衛官の話に耳を傾け、「自助・共助の大切さを知った」「地域の防災訓練へ積極的に参加したい」といった感想が寄せられた。

当日は、「災害における自衛隊の活動」「発災時に自分の命を守る」「地域の防災。周りの力になる」「避難生活を取りこぼさない」「避難所で中学生にできること」の5つのテーマを軸に教育を行った。

これは、三島市議会議員で自衛官募集相談員でもある古長谷稔氏の働きかけにより、中学生が災害時にも活躍できるよう防災意識を高めようと令和3年から希望する中学校に対して実施しているもの。



4万人以上が来場 静岡ホビーショーで自衛隊の装備品大人気



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久1等陸佐）は5月10日（金）から12日（日）まで、ツインメッセ静岡（静岡市）で開催された第62回静岡ホビーショーで広報活動を行った。

これは「模型の世界首都・静岡」で毎年開催されている日本最大級の模型展示会で、国内外から多くのファンが訪れる。10日は県内の小・中・高校生が招待され、11、12日は事前予約を行った一般来場者が朝早くから詰めかけた。

自衛隊は会場の屋外スペースと小展示場に広報ブースを開設。陸自富士学校（駿東郡小山町）の16式機動戦闘車と大型トラック、陸自第34普通科連隊（御殿場市）の軽装甲機動車、高機動車、偵察用オートバイが会場正面で来場者を出迎え、「本物だ」「かっこいい」と多くの人が足を止めて見入っていた。

特に16式機動戦闘車の砲塔旋回展示では、車体を取り囲んだ来場者たちが力強いエンジン音や滑らかな砲塔の動きに驚きの声を上げ、展示終了後には隊員たちに温かな拍手が送られた。

一方、小展示場では静岡地本と海自横須賀地方総監部が「触れて楽しんで知る自衛隊」の展示を実施。毎回人気の制服試着体験や南極の氷に触れる体験のほか、海自初となる潜水艦脱出用スーツの展示や、迷彩柄で偽装された宿営用天幕（テント）の展示に、来場者は「すごい」と目を輝かせていた。

また、子どもや大人が中に入って写真撮影ができるトリカルネット製ミニ100式戦車も人気を集め、「作ってみたいのですが何でできていますか」という模型好きの声もあった。

静岡地本は、今後も自衛隊の活動や自衛官の仕事をもっとの人に知ってもらえるよう広報活動を行っていく。

富士総合火力演習を学生等が見学 防衛力肌で感じる



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久1等陸佐）は5月26日（日）、東富士演習場（御殿場市・裾野市・小山町）で行われた令和6年度富士総合火力演習に県内の学生等199人を引率した。前半は陸上自衛隊が保有する装備品が次々と会場に登場し、その性能を披露した。戦車や機動戦闘車などが土煙を上げながら観覧席の目の前に現れ、遠く離れた山の斜面に設置された目標に向けて実弾射撃を行った。

参加者は射撃の轟音と体に響く振動、演習場の地形を利用してさまざまな場所から現れる装備品の数々に圧倒されていた。

後半は島しょ部防衛を想定した実戦的な内容で、陸と空から各部隊が連携して展開する様子のほか、指揮所の映像や飛び交う無線の音声など、参加者にも緊迫した現場の様子が伝えられた。

演習を通し、参加者は装備品の威力だけでなく、通信や情報を駆使した戦い方や装備品を扱う隊員の技術など、自衛隊の防衛力を肌で感じた様子だった。

静岡地本は、今後も若者が部隊を見学できる機会を設け、理解促進を図っていく。